

今日のキーワード「爆買い」に一服感？（日本）

日本を訪れる外国人旅行者の消費動向を知るには、国土交通省観光庁が、四半期に1度実施する「訪日外国人消費動向調査」が参考になります。最新の調査によれば、日本における消費金額は旅行者数の伸びにより増加していますが、1人当たりの単価は減少しています。流行語にもなった「爆買い」に一服感が出ています。ただし、一方で新たな変化も起こっており、今後の動向が注目されます。

ポイント1

4-6月の訪日外国人旅行消費額は前年比7%増の9,533億円 ただし、1人当たり旅行支出額は10%減の16万円に低下

- 観光庁が7月20日に発表した4-6月の「訪日外国人消費動向調査」によれば、同期間の旅行消費額は9,533億円と前年同期比で7%の増加となりました。旅行者数が596万人と同19%の増加となったことが背景です。ただし、1人当たりの支出額は16万円と同10%減少しています。これは、円高に加え、旅行者数の多い中国人の1人当り支出額が22万円へと同23%減少していることが主因です。

ポイント2

円高と中国の課税強化が影響 中国の消費額単価は5位に低下

【4-6月の旅行支出額単価の国別トップ10】

- 中国からの旅行者の1人当たり支出額が大幅に減少した背景としては、この期間に前年同期比で17%程度の円高・人民元安が進行したことに加え、4月以降、中国でお土産品への課税強化策が実行されたことが影響している模様です。いわゆる「爆買い」に、一服感が出ています。
- ただし一方で、新たな変化が見られます。ベトナムからの旅行者の支出額単価が前年に比べ14%増加し国別でトップになったほか、ロシア、ドイツ、フランス、米国などでも単価が上昇しているのが注目されます。このため国別の支出額単価で2015年には断然トップであった中国が、4-6月の調査では5位に下がっています。

国	1人当たり 支出額 (円/人)	前年同期比 (%)	旅行者数 (千人)
ベトナム	238,375	13.7	67
オーストラリア	233,902	-4.5	100
スペイン	223,959	-1.8	19
ロシア	220,020	56.8	13
中国	219,996	-22.9	1,605
ドイツ	216,129	17.9	47
フランス	206,172	11.2	74
米国	190,344	4.9	352
英国	184,424	-3.8	73
イタリア	186,215	-9.4	30
全ての国の合計	159,930	-9.9	5,961

（出所）観光庁のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

2020年に「訪日外客数」4,000万人に向けての施策に期待

- 政府は2020年の「訪日外客数」を2015年の倍増となる4,000万人に増やす目標を設定し、種々の施策を打ち出しています。観光庁の来日旅行者へのアンケート調査でも、「必ず来たい」が59%、「来たい」が34%とリピーターへの期待が持てる結果となっており、目標達成の公算は高まっています。
- 中国人旅行者の買い控えの影響で、今後1人当たりの支出金額が伸び悩んだとしても、単価面での中国人旅行者への依存度は以前より低下しています。今後は旅行者数の増加でカバーし、外国人旅行者の日本での消費額は、年々増加トレンドをたどるものと予想されます。

ここも チェック！

2016年 8月 18日 「外国人旅行者」7月は過去最高を更新（日本）

2016年 4月 13日 「明日の日本を支える観光ビジョン」（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。